

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 月 1	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	フランス語 II French II		
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	F27・28	科目分類	外国語科目(フランス語)
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:松藤 英恵/Eメールアドレス: cinema_naga2@hotmail.com /研究室: 全学教育非常勤講師室 /オフィスアワー: 火曜日 10:30~12:30/木曜日 14:30~15:30			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500文字)			
<p>授業のねらい:前期(フランス語 I)の内容を継続して行います。文法の範囲を広げつつ、後期では、時間や道順を尋ねる、レストランで食事をする、買い物をする等、より実践的なコミュニケーション能力を身に着けます。また、前期に引き続き、生きたフランス語に親しめるよう、講義ではビデオや日用品、写真などの教材を利用し、口頭やジェスチャーを使つての表現などにも留意します。また、フランスの政治・経済・社会・歴史・文化・産業等の紹介も行います。</p> <p>授業方法:教科書、オリジナルのプリント教材の他、ビデオやCD、時事問題等の教材を毎回使用しながら授業を進めます。</p> <p>授業到達目標:実際にフランス語圏を旅行したり、生活したりする上で最低限必要な表現を、口頭・筆記の両方で表現できるようになることが最大の目標です。文部科学省フランス語検定4級受験、フランス国民教育省フランス語資格試験 DELFA1 合格できるよう指導します。</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字)			
<p>授業内容(概要):①練習問題オリジナルプリントを使つての文法解説と筆記演習、②教科書とCDを使つての発音練習、③同じく教科書とCDを使つてのヒアリング練習、④教科書及びオリジナルプリント、ビデオ教材を使用しての実践的な会話演習、⑤日用品、ビデオ教材、時事問題他様々な資料を使つてのフランスの政治・経済・社会・歴史・文化・産業等の紹介、の5つの要素を網羅して授業を進めます。</p> <p>第1回 オリエンテーション、第4課 時間の表現 第2回 第3課/第6課 部分冠詞と否定の冠詞 de 第3回 第5課 曜日・日付・月・季節 第4回 // 前置詞と冠詞の縮約、否定疑問文と肯定の答え Si 第5回 // /第8課 近接未来と近接過去 第6回 第6課 提案の表現、買い物の表現 第7回 第7課 住所の表現、序数 第8回 // 補語人称代名詞の直接目的格と間接目的格 I 第9回 // 補語人称代名詞の直接目的格と間接目的格 II 第10回 第6課 中性代名詞 en、y、le 第11回 第8課 レストランでの表現 第12回 第9課 道順を尋ねる表現 第13回 第8課 直説法複合過去形 第14回 授業のまとめと口頭試験 第15回 授業のまとめと定期試験</p> <p>※注意!:上記の E メールアドレスには、一部の携帯電話を使つての送受信が出来ないことがあります。送受信できない場合は、別の携帯電話或いはパソコンのアドレスから送信し直して下さい。</p>			
キーワード	フランス語を使って、世界にはばたこう!		
教科書・教材・参考書	教科書:前期に同じ。「P.P.P. NOUVELLE EDITION(《2004年改訂版》ペー・ペー・ペー)」(第三書房) 辞書:仏和辞典を1冊、出来れば和仏辞典も購入すること。出来るだけ新しいもの。電子辞書は不可。旺文社『プチ・ロワイヤル仏和辞典』『プチ・ロワイヤル和仏辞典』『ロワイヤル仏和中辞典』がお勧め。授業中に指示します。なお、配布プリント、提出レポート等はすべてA4サイズに統一します。		
成績評価の方法・基準等	期末定期試験の成績 50% 期末口頭試験の成績 40% 授業への取り組み方・意欲等 10%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	繰り返し復習することによって、フランス語を確実に自分のものとして定着させましょう。日本のテレビや新聞、雑誌、インターネット等を使って、フランス語圏の様々な時事問題や文化などの情報に、積極的に触れましょう。		